資料７

地域の活動主体の課題と長所

地域で活動する主体ごとに、**活動の「課題」**および**他の主体と比較した「長所」**として指摘されているものの一例を挙げる。

町会・自治会

（課題）
- ア　役員など、担い手となる人材が不足・高齢化している
- イ　加入率が低下している
- ウ　活動が硬直化している
- エ　活動資金が不足している
- オ　行政関連の業務が負担になっている

（長所）
- ア　誰もが会員になれる
- イ　地域の幅広い課題に対応できる
- ウ　地域活動に使える資源を豊富に持っている
- エ　地域住民への情報伝達手段を持っている
- オ　公的機関に近い団体として信頼性が高い

事業者（区内の企業、商店会など）

（課題）
- ア　事業者数、従業者数が減っている
- イ　後継者が不足している
- ウ　商店街の空き店舗が多くなっている
- エ　商店会の会員数が減少傾向にある

（長所）
- ア　地域に密着している
- イ　平日の昼間でも地域活動等に参加できる
- ウ　事業者ごとの専門性を持っている

民間

地　域

活動主体の性質

地区区民館運営委員会

（課題）
- ア　役員など、担い手となる人材が不足・高齢化している
- イ　役員の責任・負担が重くなっている
- ウ　活動が硬直化している

（長所）
- ア　活動拠点を持っている
- イ　事業資金を持っている
- ウ　地域の様々な団体の代表者がメンバーに入っている

ＮＰＯ・ボランティア団体

（課題）
- ア　中心となって活動する人材が不足している
- イ　活動場所の確保に苦慮している
- ウ　活動資金が不足している
- エ　地域住民への情報伝達手段が少なく、活動が広がらない
- オ　団体の目的・活動内容等がわかりにくく、信頼性が低い

（長所）
- ア　課題に対する専門性を持っている
- イ　課題に応じて、活動内容を柔軟に変えられる
- ウ　団体規模に応じた範囲で活動できる
- エ　特定の地区にこだわらずに活動できる
- オ　いろいろな場所に住む人が活動に参加できる

公共

区

（課題）
- ア　地域の課題が多様化・複雑化し、行政だけでは、すべての課題に対応できない
- イ　委託等が進み、地域住民と区職員の接点が少ない
- ウ　地域の自主的活動への協働に対する、職員の意識が低い
- エ　将来の区財政の見通しが厳しい

（長所）
- ア　地域活動への支援に使える資源を豊富に持っている
- イ　様々な統計データを持っている
- ウ　公的機関として信頼感が高い
- エ　活動拠点となる区立施設を持っている

学校・学術機関

（課題）
- ア　家庭・地域との連携が求められている
- イ　ＰＴＡ活動等を負担と感じる人が増えている

（長所）
- ア　区内全地域に立地している
- イ　教室、体育館、グランドなどの設備が整っている
- ウ　子どもたちを通じて、地域と接点を持てる
- エ　専門的な知識を持っている